

【合同資源みらい賞】 あべ まゆこ 阿部 真友子

37才で亡くなったパパへ

阿部 真友子

名字は「飛田」でしたね。真友子は3才でした。
たった3つだけど、当時を少し覚えています。
卓袱台で兄2人、パパ、ママの5人で食事をした事。
「よく噛む」を教えてくださいましたね。
夜は家族5人、川の字で眠りました。真友子が寝つけない時は、パパに叱られました。
ある時には、優しく「真友子」と呼んでくださいましたね。
月日が経って真友子が37才になった時、パパからの迎えを待っていました。
来ませんでしたね。
真友子が中学2年生の時に、自ら死のうとしたことがあります。
学校で、いじめられていたからです。本当に苦しかったです。
その時に、ママが教えてくださいました。
「生きるのは辛い時もあるけど、自殺はもっと苦しくなるし、パパは怒るよ。」と。
パパと住んでいた家。区画整理の為、道路になってしまいました。
ママと車に乗って通ると、複雑な気持ちになります。
現在、真友子は43才になりました。パパより長く生きています。
これからも生きていれば、辛い事や悲しい事、悔しい事など、色々あると思います。
けれど、困難に立ち向かって行こうと思っています。
そちらから見てくださいね。
そして、パパが居る場所へ着いたら、笑顔で迎えてください。
真友子は、しっかりと前を向いて生き抜いてみせますから。

(千葉県/43歳/女性/無職：就労施設通所)

入賞者の作品への大切な想い

亡くなった父を思い出して、素直に書きました。